

## 現代社会では普段より自己健康管理が必要

先日、国家公務員共済連合会病院へ紹介状を持参し外来内科で受診した際、待合室は外来患者であふれ座ることもできない状態であった。そのため受付から3時間経過後に、やっと会計窓口で何千円かの一部負担金を支払うことになりました。

支払後、連合会病院も他の病院と同じ3割の一部負担金の支払いが必要な時代であると聞いてはいましたが、十数年前とは大きく変わったことを痛感した次第である。

いま、国では高齢化などに伴って増え続ける医療費をどうやって賄っていったらいいのか、大きな問題となっており、厚生労働省の推移では、年に3%から4%ずつ伸びて20年後には2.1倍になると予想している。これだけの負担増を保険料の引き上げや増税だけでカバーするのは難しいとの指摘もあり、現在の窓口負担が、20年後には6割を越えることになる試算も新聞に掲載されていた。

国の財政が悪化しているため、現在の内閣は一貫し、国の関与を小さくする「小さな政府」を目指している。社会で助け合うことを重視し、保険料や税金で賄う広くする「大きな政府」とは反対の考えである。

政府の考えでは、医療費の大半を公的保険で賄う現行の仕組みに限界がきており、民間保険も活用すべきだとの考えのようである。

また、財政難だけでなく、世代間の不公平感もこうした考え方を後押ししているようである。

社会全体で助け合う考え方は、もう限界なのだろうか。現在は、核家族化が進み高齢者のみの世帯も増えており、年金、介護保険の見直しに続き、今年は医療制度改革の議論が本格化し、医療費の負担のあり方を考える議論の行方は、社会保障そのものの方向性を占うことになりそうである。

最近、厚生労働省は、健康診断の受診率を高め、食生活改善や運動の指導で病気の進行を防ぎ、医療費抑制につなげようとしていることは、我々にとってはとても良いことではないだろうか。

窓口負担が大幅に増えれば、受診を控えるようになり医療費が減る効果があるが、公的保険を縮小すると、個人の財力によって受け入れられる医療サービスに格差が生じることになり大変住みづらい世の中になるのではないのでしょうか。

普段より健康管理に努め、安定した生活を営むための努力が必要なことを痛感した今日この頃である。

(会計課長 吉村 昭男)

\* \* \* \*

表紙右上記号 ISSN 1346-6747の説明

ISSNはInternational Standard Serial Number(国際標準逐次刊行物番号)の略で、逐次刊行物に付与される国際的なコード番号で、ISSD(国際逐次刊行物データシステム)という組織のもとで逐次刊行物の組織や検索に利用されます。

この番号は国立国会図書館ISSD日本センターから割り当てられたものです。